

要求性能項目確認書（記入例）

【前提条件】本確認書においては、以下に示す鉄筋の状態を「標準的」な施工対象とします

- ・断面の半分がコンクリートより露出した状態の鉄筋（長さ 1000mm）
- ・比較的軽微な腐食状態の鉄筋（顕著な断面減少には至っておらず、さび厚は 100 μ m 程度）
- ・塩害環境ではなく、コンクリート中の塩分濃度も低い（※塩害環境の表示のある項目を除く）

施工性に関する情報	A-1	前処理に関する情報	①さび面への対応方法 ・前処理の必要性： ☒ 必要 / ☐ 不要 ・必要な工具種類： ☐ 電動工具 / ☒ 手工具 ・使用する工具名称： ワイヤブラシ ・地鉄面露出の必要性： ☐ 必要 / ☒ 必要なし ・除去が必要なさび： ☒ 浮きさび / ☐ 固着さび / ☒ 塩分を多く含むさび ☐ その他（ ） ・さび除去での留意点（※水洗いの実施は不可とする） ②濡れている面への対応方法 ・濡れたままでの施工： ☐ 可能 / ☒ 不可 ・表面水のふき取りでの施工： ☒ 可能 / ☐ 不可 ・乾燥させての施工： ☐ 必須 / ☒ 望ましい / ☐ 必要なし ・その他留意点 補修対象面に、浮水、流水がある場所には使用しない。事前に水対策が必要。
	A-2	装備や資格に関する情報	①必要な資格 ・必要な資格： ☒ なし / ☐ あり（ ） （特定の場面において必要となる場合は、その条件を記載） ・望ましい資格： ☐ なし / ☒ あり（ ） （特定の場面において保有が望ましい場合は、その条件を記載） 施工対象箇所が多く、多量の材料をストックしておく場合には有機溶剤作業主任者の設置が望ましい。 ②必要な工具 ・電源： ☒ 不要 / ☐ 必要 ・秤量用具： ☒ 不要 / ☐ 天秤 / ☐ 秤量カップ ☐ その他（ ） ・電動工具： ☒ 不要 / ☐ 必要（ ） ・手工具： (はけ)

※この様式が 1 枚に収まらない場合は、複数枚に分割して作成しても構いません。

要求性能項目確認書

	A-3	取扱いに関する情報	複数の材料がある場合は、材料毎に記載 【材料 A】 ①可搬性（荷姿、重量） ・ 名称：（ ***浸透剤 ） ・ 荷姿：□缶／□袋／■スプレー／□その他（ ） ・ 重量：300g ②適用温度 ・ 適用温度範囲（0℃～40℃） ・ 高温時、低温時の留意点：■なし／□あり - 高温時（℃程度以上において、） - 低温時（℃程度以下において、） ③可使時間 ・ 使用可能とするための事前作業：□なし／■あり □2液混合（） □水練混ぜ（） ■その他（ 缶を 30 回以上振って混合 ） ・ 標準的な使用可能時間：□（ ）時間／□（ ）日／■（1～2）月 ・ 高温時、低温時の留意点：■なし／□あり - 高温時（℃程度以上において、） - 低温時（℃程度以下において、） 【材料 B】 ①可搬性（荷姿、重量） ・ 名称：（ ***被覆剤 ） ・ 荷姿：■缶／□袋／□スプレー／□その他（ ） ・ 重量：500g ②適用温度 ・ 適用温度範囲（5℃～40℃） ・ 高温時、低温時の留意点：□なし／■あり - 高温時（℃程度以上において、） - 低温時（10℃程度以下において、硬化が遅く夜間の結露に注意） ③可使時間 ・ 使用可能とするための事前作業：□なし／■あり ■2液混合（ 硬化剤との2液混合 ） □水練混ぜ（） □その他（） ・ 標準的な使用可能時間：■（6）時間／□（ ）日／□（ ）月 ・ 高温時、低温時の留意点：□なし／■あり - 高温時（30℃程度以上において、可使時間が短くなる） - 低温時（℃程度以下において、）
--	-----	-----------	--

要求性能項目確認書

施工性に関する情報	A-4	施工工程、施工時間に関する情報 ①標準的な工程と施工時間 ※露出鉄筋 1000mm、軽微なさびが発生している状態を想定 <table border="1"> <thead> <tr> <th>工程数</th> <th>工程名</th> <th>作業内容</th> <th>施工時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>準備</td> <td>材料Aスプレー缶振混ぜ 材料Bの2液混合</td> <td>10分</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>前処理</td> <td>ワイヤブラシで浮きさび除去</td> <td>3分</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>防錆措置</td> <td>材料Aスプレー噴霧</td> <td>2分</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>養生</td> <td>固化まで放置</td> <td>3時間</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>防錆措置</td> <td>材料B塗布（刷毛塗り）</td> <td>5分</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※5以下は必要に応じて追記	工程数	工程名	作業内容	施工時間	1	準備	材料Aスプレー缶振混ぜ 材料Bの2液混合	10分	2	前処理	ワイヤブラシで浮きさび除去	3分	3	防錆措置	材料Aスプレー噴霧	2分	4	養生	固化まで放置	3時間	5	防錆措置	材料B塗布（刷毛塗り）	5分	6							
	工程数	工程名	作業内容	施工時間																														
1	準備	材料Aスプレー缶振混ぜ 材料Bの2液混合	10分																															
2	前処理	ワイヤブラシで浮きさび除去	3分																															
3	防錆措置	材料Aスプレー噴霧	2分																															
4	養生	固化まで放置	3時間																															
5	防錆措置	材料B塗布（刷毛塗り）	5分																															
6																																		
A-5	施工品質に関する情報 ①所定の性能を発揮させるために必要な標準的な施工仕様 複数の材料を施工（塗布、噴霧）する場合には、材料毎に記載 例えば、塗膜厚や単位当たりの塗布量といった施工仕様を記載 【材料A】名称：（**防錆スプレー） ・施工回数： 2, 3 回（同じ材料の繰返し施工回数） ・施工間隔： ■なし／（ ） □sec／□分／□時間 ・被覆厚さ： 200 μm（□1回あたり／■材料全体） ・施工量： 300 □g/m、■g/m²（□1回あたり／■材料全体） ・施工時間： 2 分/m（□1回あたり／■材料全体） ・特記事項： 鉄筋と 20～30cm 程度の間隔を取って 2、3 回に分けて噴霧 【材料B】名称：（**被覆剤） ・施工回数： 1 回 ・施工間隔： ■なし／（ ） □sec／□分／□時間 ・被覆厚さ： 100 μm（■1回あたり／□材料全体） ・施工量： 150 □g/m、■g/m²（■1回あたり／□材料全体） ・施工時間： 5 分/m（□1回あたり／□材料全体） ・材料Aとの施工間隔： 3 □分／■時間 ・特記事項： ②品質を確保するうえでの留意点 施工の向きにより施工要領（塗布回数など）が異なる場合などの留意点を記載 ・一般的な留意点： 一度に厚付けせずに 2～3 度塗り重ねる。 ・塩害環境での留意点： 塩害環境における対応（特に露出境界部）などの留意点を記載 露出境界部付近は特に丁寧に施工し、膜厚を十分に確保する																																	

※この様式が 1 枚に収まらない場合は、複数枚に分割して作成しても構いません。

要求性能項目確認書

施工性に関する情報	A-6	施工管理に関する情報	①施工管理項目 例えば、塗膜厚やさび除去の程度といった管理項目を記載 ◆前処理 ・管理項目：■外観／□さび厚／□その他（ ） ・管理方法：（ 目視で汚れや付着物がないことを確認 ） ◆防錆措置 ・管理項目：■外観／□膜厚／□その他（ ） ・管理方法：（ 施工後の表面が濡れ色又は光沢の状態を確認 ） ②施工完了の判別方法 ・判別項目：■外観／□膜厚／□その他（ ） ・判別方法：（ 無色透明なのでテカリで判断 ）

※この様式が1枚に収まらない場合は、複数枚に分割して作成しても構いません。

要求性能項目確認書

防食性能に関する情報	B-1	防食機構に関する情報	複数の防食機構の複合作用の場合は、防食機構毎に記載別表-3 の分類に該当しない防食機構は、任意の名称を記載 【防食機構 A】 ◆名称（ さび転換による安定化 ） ◆材料名、反応式等を用いて説明 さび層に浸透して不安定なさび（β-FeOOH, γ-FeOOH など）を、Fe_3O_4 などの安定な錆に転換することで、腐食速度を抑制する。 ◆上記の防食機構が成立していることを示す根拠データ ・試験の目的（確認内容） - さび組成の変化を確認 ・試験方法（試験の名称） - X線回折分析 ・試験条件 - 太平洋沿岸地域の屋外で3ヶ月暴露した腐食試験片を対象とし、防錆剤噴霧前のさび分析、噴霧1週間後のさび分析 ・試験結果 <table style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center; color: red;">処理前</th> <th style="text-align: center; color: red;">処理後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; color: red;">α-FeOOH</td> <td style="text-align: center; color: red;">10%</td> <td style="text-align: center; color: red;">8%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; color: red;">β-FeOOH</td> <td style="text-align: center; color: red;">15%</td> <td style="text-align: center; color: red;">2%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; color: red;">γ-FeOOH</td> <td style="text-align: center; color: red;">25%</td> <td style="text-align: center; color: red;">5%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; color: red;">Fe_3O_4</td> <td style="text-align: center; color: red;">20%</td> <td style="text-align: center; color: red;">55%</td> </tr> </tbody> </table> ・添付資料： ■あり（資料 No.： ） / ☐なし 【防食機構 B】		処理前	処理後	α -FeOOH	10%	8%	β -FeOOH	15%	2%	γ -FeOOH	25%	5%	Fe_3O_4	20%	55%
		処理前	処理後															
α -FeOOH	10%	8%																
β -FeOOH	15%	2%																
γ -FeOOH	25%	5%																
Fe_3O_4	20%	55%																
B-2	防食性能の持続性に関する情報	①適用する環境において、想定される防食材の劣化因子、並びに、その因子に対して一定の耐性があることを示す促進試験結果、大気暴露試験の結果、あるいは、実施工での追跡調査結果 ・試験結果の有無： ☐促進試験 / ☐大気暴露試験 / ■追跡調査結果 / ☐なし ・想定する防食材の劣化因子：（ 紫外線 ） ・試験条件 - 内陸都市部の高架橋床版張り出し下面の露出鉄筋に適用し追跡調査 ・試験結果： ■（24）ヶ月の間変化なし / ☐（ ）ヶ月以降変化あり ・添付資料： ■あり（資料 No.： 6 ） / ☐なし 例えば、有機被覆防食のように紫外線やアルカリ溶液の影響を受けると想定される材料の場合は、紫外線劣化に対する促進試験の結果、耐アルカリ性試験の結果、大気暴露試験の結果、実施工での追跡調査結果などを添付																

※この様式が1枚に収まらない場合は、複数枚に分割して作成しても構いません。

要求性能項目確認書

防食性能に関する情報	B-3	さび面に対する防食性に関する情報	①さび面に対する促進試験の結果、大気暴露試験の結果、あるいは、さび面に対する実施工での追跡調査結果 試験条件や施工条件を含め、促進試験の結果などを添付 - さび面に対する試験結果： ☐促進試験／☐大気暴露試験／☒追跡調査結果／☐なし - 試験条件（対象箇所） (一般環境にある橋梁の床版（張出し部） 下面) - さびの状態 (軽微な腐食。断面欠損なし。) - 試験結果 (防錆処理後 2 年経過時点で外観変化なし) - 添付資料：☒あり（資料 No.： ）／☐なし ②所定の性能を発揮させるために必要な標準的な施工仕様において、前提となるさび除去の程度、および、塩害環境における留意点 一般環境と塩害環境で前提となるさび除去の程度が異なる場合は、それぞれ記載。また、前提に関する留意点があれば記載 なお、コンクリート中に埋没している部分の鉄筋の腐食による影響は考慮しない - 一般環境でのさび除去程度：☒100 μm 程度以下 ☐その他（ ） - 塩害環境でのさび除去程度：☐ μm 程度以下 ☒その他（可能な範囲で除去する ） - 塩害環境での留意点： - 塩分を多く含むさびを残置させると、被膜の耐久性が極端に短くなる場合があるため、現場で可能な範囲で除去しておくことが望ましい。
断面修復に関する情報	C-1	被膜の除去に関する情報	①施工した被膜の除去方法 - 電動工具：☐不要／☒カップワイヤ／☐ディスクサンダー ／☐その他（ ） - 手工具：☐不要／☐ワイヤブラシ／☐ナイロンブラシ ／☐その他（ ） - 留意点：（ ）
	C-2	断面修復材との適応性に関する情報	☒C-1 に該当するので本欄(C-2)記載なし ①コンクリートとの付着試験の結果：☐あり／☐なし - 試験方法： - 試験結果： - 添付資料：☐あり（資料 No.： ）／☐なし ②耐アルカリ性試験の結果、あるいは、実施工での調査結果：☐あり／☐なし - 試験方法： - 試験結果： - 添付資料：☐あり（資料 No.： ）／☐なし

※この様式が 1 枚に収まらない場合は、複数枚に分割して作成しても構いません。